

# 隣接校選択制の検証と今後の方向性【概要版】

## 1. 隣接校選択制の考え方

豊島区では、平成13年度の区立小・中学校入学予定者から、「隣接校選択制」を導入し、通学区域の弾力化を実施しています。

豊島区の「隣接校選択制」で選ぶことのできる学校は、通学区域が接している学校に限定されています。それは、これまでに培ってきた学校と地域の関係に配慮するとともに、従来の指定校変更の際の約9割が隣接する学校を選んでいったことから、ほぼ学校選択の希望を充足できるという考えに基づいています。

隣接校選択制も10年目を迎えており、制度の運用について様々な意見もあることから、これまでの実施状況を検証し、今後の方向性のとりまとめを行いました。

### ■ 23区の状況

|     | 自由選択<br>(区内全域から選択) | 隣接校選択<br>(隣接する学区から選択) | ブロック選択<br>(区内をブロックに分け選択) | 特認校制<br>(特定の学校について選択を認める) | 導入なし |
|-----|--------------------|-----------------------|--------------------------|---------------------------|------|
| 小学校 | 7区                 | 6区                    | 1区                       | 1区                        | 8区   |
| 中学校 | 16区                | 3区                    | —                        | —                         | 4区   |

## 2. 隣接校選択制の実施状況等

### (1) 隣接校選択制の希望申請の状況

|        | 小学校    |      |       | 中学校    |      |       |
|--------|--------|------|-------|--------|------|-------|
|        | 入学予定数  | 希望数  | %     | 入学予定数  | 希望数  | %     |
| 平成21年度 | 1,410人 | 304人 | 21.6% | 1,377人 | 202人 | 14.7% |

### (2) 学校の選択理由

21年度の学校選択理由は、小学校では、「兄・姉・親類が在籍」「通学距離・安全性」「友人関係」が上位を占めており、子どもたちの今までの人間関係や通学上の安全面が重視される傾向にあります。また、「校風・教育方針」や「学校見学」も比較的上位の理由となっています。

中学校では、「友人関係」「通学距離・安全性」などのほか、「部活」「本人希望」「小学校の指定校」が上位を占めており、子どもたちの「今までの人間関係」や「通学上の安全面」以外に「部活の状況」が重視される傾向にあります。

### (3) 隣接校選択制の受入れ枠の設定と抽選の実施

隣接校の受入れ枠は、各校原則40人ですが、学校施設の状況等により、19・20年度には受入れ枠をあらかじめ制限し、抽選を実施しました。

| 対象校     | 20年度受入れ枠 | 19年度受入れ枠      |
|---------|----------|---------------|
| 目白小学校   | 20人      | 20人           |
| 仰高小学校   | 35人      | 40人(受入れ枠制限せず) |
| 千登世橋中学校 | 20人      | 20人           |

### 3. 平成21年度の入学児童・生徒の状況（隣接校選択結果）

隣接校選択制等の結果を反映した21年度の区立小・中学校の入学状況は以下のとおりです。

|       | 入学予定<br>の児童数 | 隣接校選択       |     | その他増減 | 入学数   |
|-------|--------------|-------------|-----|-------|-------|
|       |              | (増、減)       | 差引  |       |       |
| 仰高小   | 39           | (+21、-3)    | +18 | +7    | 64    |
| 駒込小   | 77           | (+1、-9)     | -8  | -17   | 52    |
| 巣鴨小   | 60           | (+1、-13)    | -12 | -12   | 36    |
| 清和小   | 43           | (+25、-7)    | +18 | -1    | 60    |
| 西巣鴨小  | 51           | (+14、-11)   | +3  | -1    | 53    |
| 豊成小   | 59           | (+11、-20)   | -9  | -4    | 46    |
| 朋有小   | 73           | (+20、-3)    | +17 | -3    | 87    |
| 朝日小   | 50           | (+1、-23)    | -22 | -11   | 17    |
| 池袋一小  | 63           | (+4、-6)     | -2  | -12   | 49    |
| 池袋二小  | 47           | (+6、-11)    | -5  | -4    | 38    |
| 池袋三小  | 90           | (+1、-13)    | -12 | -16   | 62    |
| 池袋小   | 62           | (+8、-11)    | -3  | -24   | 35    |
| 文成小   | 45           | (+5、-6)     | -1  | -6    | 38    |
| 南池袋小  | 100          | (+5、-14)    | -9  | -10   | 81    |
| 高南小   | 65           | (+1、-10)    | -9  | -13   | 43    |
| 目白小   | 61           | (+30、-3)    | +27 | -7    | 81    |
| 長崎小   | 32           | (+0、-15)    | -15 | 0     | 17    |
| 要小    | 49           | (+20、-15)   | +5  | -3    | 51    |
| 椎名町小  | 51           | (+6、-8)     | -2  | -7    | 42    |
| 富士見台小 | 50           | (+14、-6)    | +8  | -13   | 45    |
| 千早小   | 66           | (+17、-8)    | +9  | -6    | 69    |
| 高松小   | 65           | (+16、-3)    | +13 | +1    | 79    |
| さくら小  | 80           | (+3、-12)    | -9  | -8    | 63    |
| 計     | 1,378        | (+230、-230) | 0   | -170  | 1,208 |

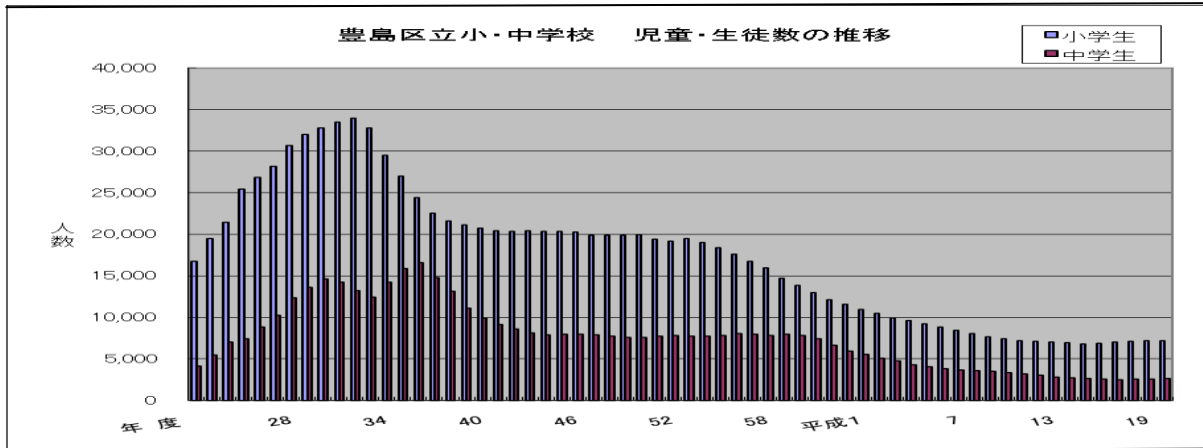
※ その他の増減のうち、減の主な要因は、転出、私立、国立・都立、他区就学、増の主な要因は、転入、区域外就学です。

|       | 入学予定<br>の生徒数 | 隣接校選択       |     | その他増減 | 入学数 |
|-------|--------------|-------------|-----|-------|-----|
|       |              | (増、減)       | 差引  |       |     |
| 駒込中   | 137          | (+17、-6)    | +11 | -74   | 74  |
| 巣鴨北中  | 187          | (+14、-21)   | -7  | -29   | 151 |
| 西巣鴨中  | 124          | (+10、-20)   | -10 | -62   | 52  |
| 池袋中   | 153          | (+10、-5)    | +5  | -49   | 109 |
| 西池袋中  | 208          | (+13、-40)   | -27 | -56   | 125 |
| 千登世橋中 | 219          | (+23、-1)    | +22 | -87   | 154 |
| 千川中   | 122          | (+21、-13)   | +8  | -24   | 106 |
| 明豊中   | 203          | (+16、-18)   | -2  | -81   | 120 |
| 計     | 1,353        | (+124、-124) | 0   | -462  | 891 |

※ その他の増減のうち、減の主な要因は、私立（450人）、転出、他区就学、国立・都立、増の主な要因は、転入、区域外就学です。

#### 4. 児童・生徒数の推移

区立小・中学校の児童生徒数は、小学生は昭和33年度の33,997人、中学生は昭和37年度の16,613人をピークに減少が続いており、現在小学生は最盛期の約5分の1に、中学生は約6分の1に減少しています。



小学校1校当りの児童数は、平成12年度に258人と最少、中学校の1校当りの生徒数は、平成15年度に246人と最少になりました。児童生徒数の減少に伴い、豊島区では平成11年度以降、計画的な小中学校統合を実施した結果、小学校は29校から23校に、中学校は13校から8校になっています。

#### 5. 小・中学校保護者、教育関係団体等の選択制に対する意向調査結果

|      | 対象者       | 学校選択制の賛否 |       |       | アンケート回収数 |
|------|-----------|----------|-------|-------|----------|
|      |           | 選択制賛成    | 学区制   | その他   |          |
| 16年度 | 小学6年保護者   | 79.3%    | 12.1% | 8.6%  | —        |
|      | 中学1年保護者   | 78.3%    | 16.3% | 5.4%  | —        |
| 18年度 | 小学6年保護者   | 76.2%    | 14.8% | 9.0%  | 1,019件   |
|      | 中学2年保護者   | 81.4%    | 11.0% | 7.6%  | 674件     |
| 21年度 | 小学6年保護者   | 70.7%    | 8.7%  | 20.6% | 994件     |
|      | 中学2年保護者   | 70.8%    | 8.4%  | 20.8% | 695件     |
|      | 関係団体      | 48.1%    | 30.1% | 21.8% | 183件     |
|      | 教員        | 43.6%    | 40.2% | 16.2% | 388件     |
|      | 保育園幼稚園保護者 | 58.1%    | 10.4% | 31.5% | 222件     |

\* 「選択制賛成」は「隣接校選択」「ブロック選択」「自由選択」の回答の計

隣接校選択制に対する意向を把握するため、平成21年度は、小・中学校の保護者の他に、関係団体（町会・民生児童委員・保護司・育成委員）、教員、保育園・幼稚園保護者についても意向調査を実施しました。

調査結果では、小・中学校の保護者の大半が学校選択制を支持しており、「以前の学区制の方がよい」と回答したのは、小学校で8.7%、中学校で8.4%でした。一方、教員で40.2%、教育関係団体で30.1%が「以前の学区制の方がよい」と回答しており、保護者との意識の差が大きいことが明らかになりました。

## 6. 隣接校選択制の検証

### (1) 隣接校選択制の成果

- ① 7割以上の保護者が選択制を支持し、全体の1～2割が選択制を利用するなど、保護者のニーズが充足され、安定した制度運営がなされています。
- ② 各学校においては、公開講座などの開かれた学校づくりの取組みが進展しています。
- ③ 各学校における特色のある教育活動や学校教育の活性化が図られています。

### (2) 隣接校選択制の課題

- ① 特色ある教育活動による学校選択のケースがまだまだ少数であり、各学校の特色の明確化や一層のPRが必要となっています。
- ② より公平な学校選択を可能とするため、老朽校と新設校の施設格差の是正や子どもスキップ整備、ハード・ソフト両面の条件整備などが必要となっています。
- ③ 近年の児童・生徒数の減少とともに、隣接校選択制によって、特定の学校で小規模化が助長される傾向があります。
- ④ こうした小規模化の防止対策や、小規模校支援策の強化が必要となっています。

## 7. 検証のまとめと今後の方向性

- ① 平成13年度から実施した隣接校選択制は、多数の保護者から支持されています。
- ② 近年は、希望申請受付期間に小学校では約20%、中学校では約15%が利用し、安定した運用がなされており、学区域の弾力的な運用に一定の効果を挙げています。
- ③ 大部分の小・中学校では、隣接校選択制はおおむね適正に機能していますが、特定の小学校では学校の小規模化を助長する欠点があります。
- ④ 中学校においては、私立中学への進学などによる小規模化の現象が顕著であり、隣接校選択制による影響は、より小さいといえます。
- ⑤ 大多数の保護者の支持を得ている学校選択制の根本的な見直しは困難です。今後は、指定校への就学が基本であることを周知したうえで、隣接校選択制を継続していきます。
- ⑥ 選択制の希望が集中する学校については、従来からの抽選方式により適正に運営するとともに、小規模小学校に対する支援を強化します。さらに、小規模校ならではの特色や魅力を積極的にアピールしていきます。
- ⑦ 隣接校選択制の受入数（原則40人）については、学校の教室数や受入れ環境等の状況に応じて40人を下回る受入枠を設定するなど柔軟に対応していきます。
- ⑧ 今後も、教育ビジョンの改定のつど、選択制についての検証を行っていきます。